

教科（種目）	採択した発行者	採 択 理 由
国語	光村図書出版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何を学ぶかがわかり、見通しが持てるよう工夫がなされている。</li> <li>・国語の学び方や、学びの姿がイメージできる工夫が随所に見られる。</li> <li>・各単元で身につけた学びを確認できる「たいせつ」というページが設定されている。</li> <li>・つながりを意識した単元・教材配列がなされている。</li> <li>・他教科や日常生活の場で、国語学習がどのように生きるのか提示されている。</li> <li>・児童が自律的に学びを創造できるような教材選定やページ構成が意識されている。</li> </ul>
国語（書写）	光村図書出版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の流れが一目でわかるようなページの構成がなされている。</li> <li>・書写の学びを日常に生かすことができるように意識した構成となっている。</li> <li>・児童の興味・関心を高める教材開発が行われており、児童の主体的な学びを促そうとしている。</li> </ul>
社会	日本文教出版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが自分の予想や考えを出し合う場面や互いに意見を聞き合う場面を設定している。</li> <li>・「ふりかえってみよう」では、学んだことを活用して新聞等にまとめたり、話し合ったりする活動を例示している。</li> <li>・法隆寺や東大寺等の世界文化遺産のほか、能や祇園祭等を取り上げている。</li> <li>・よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培うため、問題解決に向けて、これまで学んだことを活用しながら、自分の提案を説明するなどの学習場面を設定している。</li> </ul>
地図	帝国書院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特色のある都道府県→日本周辺図→日本全図→日本地域図→世界全図→大陸別図の順で配置している。</li> <li>・「自然の統計」では、日本と世界の統計を掲載し、「日本のすがた」では、23項目の統計と帯グラフを掲載している。</li> </ul>
算数	新興出版社啓林館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学んだことを実験によって確認し、実感を伴う理解ができるよう「算数実験室」を設けている。（3年以上）</li> <li>・見通しを持って学習が進められるように、学習の筋道を示す「教科書の使い方」「学習の進め方」を設けている。</li> <li>・「よみとる算数」を設定して、文章、図、グラフ等から必要な情報を選択して問題を解決できるようにしている。</li> </ul>
理科	新興出版社啓林館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての学年で見通しを持って学習できるように、問題解決学習の流れ全体を示している。</li> <li>・論理的に考える態度や能力を育てるために、実験や観察の結果と考察を区別して掲載している。</li> <li>・理科に興味をもち、理科の有用性を実感できるよう、単元末に「つながよう」を設定し、実社会と関連した内容を写真などを用いて</li> </ul>

		<p>掲載している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「もう一度考えてみよう」により単元を通して学んだことをふりかえることができるようになっている。</li> </ul>
生活	啓林館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真やイラストが多用されており、低学年の子どもたちにも手に取りやすく、活動の内容を具体的にイメージしやすいデザインになっている。</li> <li>・生き物の育て方や、おもちゃの作り方などの例示があり、それをもとに子どもたちが活動を広げられるよう工夫されている。</li> <li>・地域性の違いにも考慮がなされており、都市部の学校でも自然について興味をもつことができるよう工夫されている。</li> </ul>
音楽	教育芸術社	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導事項及び〔共通事項〕を踏まえ、段階的に学習が進められるように配列している。また、学びがつながり、深まっていくように、系統的に題材を設定している。</li> <li>・低学年で交互唱や輪唱、3年でオスティナート唱やパートナーソングを取り上げ、4年以降で二部合唱や三部合唱へと段階的に進む構成としている。</li> </ul>
図画工作	日本文教出版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達段階に応じた活動内容、材料や用具などに配慮し、表現と鑑賞の題材を、系統的にバランスよく配列している。</li> <li>・各題材で、完成作品だけでなく、活動中の児童の姿を大きく掲載している。</li> <li>・「活動のめあて」等で、形や色とそのイメージを確かめながら活動するように示している。</li> </ul>
家庭	開隆堂	<p>「見つける・気づく」ことを学習の出発点とし、子ども自身が「なぜ、この学習が必要か」を考えた上で、学習を進めていく流れとなっている。また、授業時数の少ない家庭科では、他教科との関連を上手く生かすことが重要となるが、その点において教科書内に関連マークがあり、どの教科の何と関連があるのかが書かれており、横断的な学習がしやすい。</p>
体育（保健）	大日本図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初に学習課題を示し「やってみよう」「話し合ってみよう」の後本文によるまとめを行い、課題解決に生かせるようにしている。</li> <li>・課題解決の方法として「話し合ってみよう」を設定し、話し合い活動を中心に学習が進むようにしている。</li> <li>・5・6年の「自然災害にそなえよう」「AED」「いろいろな病気と病原体」「大切な命」では、児童にとって身近で今日的な課題を取り上げている。</li> <li>・「病気の予防」では、参考になるHP等を紹介している。</li> </ul>
外国語	東京書籍	<p>「自分のことを紹介したい」「地域のことを紹介したい」「日本のことを紹介したい」といった子どもの願いに合わせてUnitが組まれている。この願い、つまり目標に向かって各Unitを学習していくことによって、何が身に付いて何ができるようになったかを子ども自身が実感できる構成になっている。</p>

